



『日日草』

校長 武藤 浩之

今日から9月に入りました。今年の処暑は8月23日(日)でしたが、あともうしばらく残暑が続くそうです。それはさておき、旧暦9月を指す言葉は、ご存知の通り「長月」です。その由来には諸説があり、次第に夜が長くなっていく意の「夜長月(よながづき)」の略が有力なのだそうです。他に稲穂が最も長く成長する時季を表す「穂長月(ほながづき)」がもとになったという説もあります。学校という場に相應しいのは後者の方でしょう。稲穂の如く、子ども達が更に成長する2学期でありたいからです。

昨年度の聖母小だより。12月号に星野富弘さんの絵葉書を載せました。また。ぶどうの枝と実がやさしく描かれていて、その片隅にはメッセージがそっと添えられていました。今回右に載せたのは、またいつかこの紙面で、と思いつけていた絵葉書(日日草)です。新型コロナウイルスにより、休校、分散登校、そしてようやく登校再開となった1学期。日日草の絵葉書を目にする度に感じるがありました。

例年より20日ほど短い夏休みが終わり、8月19日(水)から2学期が始まりました。内容と名称が変わったものをはじめ、今学期は幾つかの行事を既に予定しています。それらは子ども達の成長を促すものでありますが、大切なのは、もちろん日々の学校生活です。「学校での学び」という言わば当たり前のことは、つまるところ星野さんの言葉『一つ一つを柔らかく包んでくれた数え切れないほど沢山の平凡なこと(日日草)』であります。まずはそういう2学期であることを、今はただただ願うばかりです。

『今だからこそこできること～6年 夏休み補習授業～』

6年1組担任 佐藤 勇作

夏休み中の2日間(8月17日、18日)、6年生のみ補習を行いました。もちろん第一の目的は、休校で遅れた学習を補うためです。ただそれ以上に、卒業する6年生にとって心に残る思い出をつくってあげたいという思いの方が強くありました。そこで、17日の午後は、「お楽しみタイム」として、プール、卒業生を招いての中学校説明会、スイカ割り(フルーツポンチ)に花火を行いました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、太陽よりも眩しい6年生の笑顔がたくさん見られました。

「補習授業を終えて」

6年1組

8月17日の補習授業では、中学生の話の聞いたり、スイカ割りをしたりして、とても楽しかったです。中学生の話では、今、小学生のうちにやっておいた方がよいことを教えてもらったので、これから実践しようと思いました。スイカ割りは、見ている方もやっている人も楽しめました。私たちのグループは、スイカが一番割れたので、メダルをもらいました。うれしかったです。

学校で初めてスイカ割りや花火をしたことは、最高の思い出です。



同窓会より寄贈

平成30年度に引き続き、今年度も桜の聖母学院小学校同窓会より、「図書費」として10万円のご寄付をいただきました。

錦戸 春恵会長より、前期児童会運営委員長6年さんが受け取りました。

ご寄付いただいた図書費で、「植物図鑑」「漢字辞典」等を購入させていただきました。この紙面におきましても、同窓会の皆様に御礼申し上げます。

錦戸会長から「図書費目録」を受け取る、6年

さん



お知らせとお願い

「2学期の諸経費集金」について

◇8月26日配付のプリントの通り、2学期の諸経費が自動引き落としとなります。引き落とし日前日までに、納付金口座の残高確認をお願いします。

・引き落とし日・・・令和2年9月4日(金)

【園児・児童募集】ご協力をお願い

《幼稚園》

【第1回 入園説明会】

9月16日(水) 13:45～14:45

【入園願書受付】

10月 1日(木)～10月 6日(火)

★9月3日(木)の『子育てフォーラム(私立幼稚園協会主催)』をもって、今年の園児・児童募集が始まります。お知り合いの方にお声がけください。なお、今年度は事前申し込みが必要です。

《小学校》

【オープンスクール】

9月17日(木)～9月19日(土)

*17(木)、18(金)・・・8:30～12:10/ 19(土)・・・8:30～11:55

【第2回 学校説明会】

10月17日(土) 10:00～12:00

【入学願書受付】

内部：11月 2日(月)～11月 6日(金)

外部：11月 7日(土)～11月13日(金)

ミニコラムNo.46 『与えられた気づきと学び』

1年1組担任：矢吹 路子

私は聖母を離れている間、特別支援学校で知的障害のある子たちの支援を1年4ヶ月、公立小学校の少人数支援室で発達障害や教室決りの子たちの支援と教育相談(カウンセリング)を2年間していました。この歳になって「支援教育」という新たな世界に飛び込むのは勇気が必要でしたが、どこか神様に導かれるようにとんとん拍子で特別支援学校への勤務が決まりました。そこでの子どもたち・先生方との出会いは、私に大きな気づきを与えてくれる(目から大きな大きな鱗が落ちたような、曇った視界が急激にクリアになったような)すばらしいものでした。

その学校の文化祭には、毎年卒業生が集まってSMAPの『♪世界に一つだけの花』を歌うコーナーがあります。「ナンバーワンにならなくてもいい、ひとりひとりがオンリーワン」と歌う彼らの笑顔を見ていると、「そうなんだよ！そうだね！！」と思わず声に出して応援したい気持ちになります。子ども一人ひとりのゴール(目標)も違い、そこにたどり着くまでの道筋も違う。どうしたらゴールにたどり着けるのか試行錯誤して、その子に合った方法を探り、最後に「できたね！」と手を取り合って喜ぶ。特別支援学校ではそんな教師と子どもの姿を何度も見てきました。差別でもえこひいきでもない、「個に応じた支援」。そんな当たり前のことを私は忘れていたのかもしれない。いや、本当の意味で理解していなかったのかもしれない。その経験は、次の仕事にも生かされました。「みんな元気で教室が大好きなわけではない。得意なこと苦手なことも全然違う。じゃあ、この子が将来自立するために今何を身につけておかなければならないか。」それを軸に考えていくと、子どもとも保護者の方とも建設的な話し合いができました。

神様に導かれるようにまた戻ってきた聖母小。3年4ヶ月の支援教育現場での気づきや学びを、今、そしてこれから出会う子どもたちの指導に少しでも生かせるよう努力していきたいと思います。